

令和2年度

## 華服飾専門学校

自己評価・学校関係者評価報告書

# 基準項目ごとの学校自己評価及び学校関係者評価・意見

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像

### 自己評価結果

学園の「建学の精神」に則り、理念・目的は明確に定められ「学則」において明文化されている。また育成人材像、具体的な運営方針、教育方針を別途定めている。育成人材像は、「時代の求める職業人」であり、服飾関連業界等が求める知識・技術、及び社会人基礎力等、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会の提言を取り入れて定めている。専門知識、技術はもとより社会人基礎力（主にコミュニケーション能力と主体性）を高める為に、アクティブラーニング、オリジナルプランニング等を取り入れ、特色ある教育活動に取り組んでいる。2018年度「単位制」「選択授業制」を導入した。学生募集、学生の質の向上、教員の資質の向上、学修成果の4本を柱に活動した。

## 基準2 学校運営

### 自己評価結果

理念、育成人材像を踏まえ、教育方針の実行、華ブランドの構築、教育システムの確立を運営方針として校長が定めている。重点目標の進捗状況に関しては、定例会で確認をして、推進会議で報告をしている。予算は事業計画に従い稟議書を作成して、経営会議の承認を経て執行している。学校法人における理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切に行われ、必要に応じて臨時会議が行われている。学校における運営組織は明確化され、組織として整っている。各部署、各人の業務分担の明確化が重要で、別途各人の業務分担表を作成している。給与に関しては「華学園給与規程」に基づき運用している。意思決定に関しては稟議が行われ、決定の課程は稟議書として記録している。承認がおりた段階で起案者に連絡されるシステムが確立されている。2018年度より志願者から在校生、卒業生に至るまで、一貫して管理できる情報管理システムを運用し業務を効率化した。

## 基準3 教育活動

### 自己評価結果

教育理念を基に、関連業界の方で構成される教育課程編成委員会での提言を受けて、教育課程を編成している。また『ADDIEモデル』の評価基準書をもとに2017年度からカリキュラム見直しを行い学則変更、2018年度より「単位制」「選択授業制」を学則変更して導入した。学科・コース毎に評価基準書を策定し、評価基準書に準拠したシラバスに教育到達レベルを明記している。また単元の授業に関しても達成度確認方法を明記している。2018年度後期より授業の進行状況を記載できるようにシラバスのフォーマットを変更した。運営方針、教育方針を教育理念に沿って定め、教育課程を編成している。将来の職種を見据えて学科毎、コース毎に科目の設定やそれぞれの授業コマ数を設定している。関連業界の方で構成される教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会において、意見の聴取や検討を行い、教育課程に反映している。具体的には、専門科目に関しては基礎知識・技術の習得、それ以外で社会人基礎力の習得・向上が重要であるとの多数の意見があり、それを反映した教育課程を編成した。キャリア教育に関しては、就職ガイダンス、一般常識、ビジネスマナー等を実施している。成績評価基準は学則に明記して学生便覧にも明記している。科目毎の評価の詳細はシラバスの評価方法に記載して実施している。取得目標の資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられており、関連する授業科目、特別講座の開設等も明確にしている。資格・免許取得のための事前授業や指導体制は整備されており、補習等の不合格者への指導体制も整備されている。教員については専修学校設置基準の資格・要件を満たす教員を確保している。また、授業担当要件については、履歴書(専門性と担当科目も記載)、必要資格の確認及びその写しも管理している。教員の資質向上のため、関連業界と連携して研修を実施しているが、さらに業界で求められる知識、技能習得、教育力・指導力の質向上が必要である。必要なセミナー等への参加を促すと同時に、自己啓発で向上を図るよう指導している。教員の組織体制に関しては分野毎に必要な教員組織の体制を整備し、業務分担・責任体制等は組織図等で明確に定めている。

## 基準4 学修成果

### 自己評価結果

令和2年度はコロナ禍での就職活動で苦戦し就職希望者に対する就職率は84.2%であったが卒業後もしっかりとフォローをしている。就職活動の早期化に伴い、就職に対する早期意識付けを目的として、就職ガイダンスの授業を1年次後期より実施している。1年次3月には就職活動の為の研修を実施している。また、企業との連携を図りながら就職活動支援を行っている。就職率は下がったが、希望職種への就職は出来た。今後は第一希望の合格率向上とコロナ禍での就職活動の行い方の見直しが必要。取得目標の資格はコースにより異なり、各資格・免許の取得率は、合格実績と全国平均とを比較し、取得目標を決定している。合格率を上げる為の特別講座も開設している。縫製技術系の検定はほぼ合格率100%である。パターン検定の検定期間が変わり、今年度は1年が3級を受験し100%の合格であった。2級に関してはコロナの影響で試験日が集中し検定対策の読みの甘さがあった。全員受験のファッションビジネス能力検定73.3%、ファッション色彩能力検定87.1%の合格率で、全国平均を上回った。ファッションビジネス能力検定は、1年次の11月に受験させている。そこで不合格の学生は2年次の検定試験に再チャレンジさせる。

## 基準5 学生支援

### 自己評価結果

毎週火・木曜日の朝、就職担当・担任とで意見交換を行い、求人情報の共有や希望者の有無等の情報共有を行っている。関連業界と連携し校内企業説明会（令和2年度はzoomでのオンライン説明会も実施）を実施している。また就職指導（就職ガイダンス）の授業を設け、就職活動の流れから、実際の受験対策の指導（グループディスカッション、面接指導等）を行っている。受験先が決定したら、受験先に合わせた受験対策（面接指導等）を行っている。学生の出席状況に関しては毎日の出欠を担任が確認し、教務担当に報告を行う体制である。欠席や遅刻が目立つ学生は担任が面談を実施し学生個人カルテに記載して、指導経過記録として情報共有して活用している。まずは担任が個人の動向・変化をいち早く察知することが最も重要である。今年度退学者4名（前年度7名）と減少。退学理由としては、進級・卒業不可（学費、出席日数不足）に加え、体調不良（精神的理由）であった。担任のきめ細やかな個人指導、保護者面談等に努めている。学生相談の対応窓口は担任としている。その内容は担任が指導記録（個人カルテ）に記載して、教員間、外部講師とも情報を共有して活用している。就職、学費については専門の担当者を置き、指導記録で情報共有し対応している。学費に関しては学校独自の特待生制度を設けており日本学生支援機構奨学金や各種教育ローンについては担当者が個別に対応している。奨学金制度・教育ローンについては入学案内に記載し入学前から周知している。学費納入に関しては分納制度を設け、個別の事情にも応じている。健康診断に関しては学校保健法に基づき、年1回4月（今年度は6月）に健康診断を行っている。有所見者については、予防措置、治療指示をしている。また学校医を選任している。遠隔地から就学する学生に対しては、関連企業と提携して寮を確保している。管理面においては、寮に常駐している管理人から定期的な報告を受け、生活指導に活かしている。経済的負担の軽減のための寮利用対象の奨学金制度がある。課外活動に関しては外部のファッションショーへの参加等については学校で把握し、支援を行っている。学力不足や心理面の問題がある場合は、保護者と連携し保護者面談を随時実施している。緊急時の連絡体制も確保している。社会人への教育環境に関する特別な配慮は行っていないが、社会人入学者にも対応できるカリキュラムを編成しており個別相談に応じている。

## 基準6 教育環境

### 自己評価結果

設置基準、法令の基準に準じ、且つ教育上必要な設備を完備している。図書室においては、専門書の他にファッション誌の購入も行っている。学生の憩いの場として学生ラウンジを設けている。重点目標として、設備の充実を図っている。インターンシップに関しては受入れ先企業の指導者と事前に打ち合わせを行い、教育効果を高める実施体制の構築を図っている。ただし、現在インターンシップは正規の授業として教育課程上の位置づけはされていない。防災に関しては学園事務局を中心に防災体制を構築し、マニュアル化している。防火防災避難訓練を実施しているが今年度はコロナの影響で指導のみとなった。毎年新生生には防災グッズを配布し、飲料水、食料等の防災用品の備蓄を行っている。全ての校舎の耐震化を行い緊急地震速報の設置をして法令に基づき、消防設備の点検、特定建築物検査を実施して指摘事項は改善を行っている。安全管理では、不審者対策として、受付での入退館チェックを行っている。夜間は人的、機械警備の両方を導入し、学校財産の保全に努めている。授業中の事故や怪我については、対応マニュアルを策定し対応している。

## 基準7 学生の募集と受入れ

### 自己評価結果

高等学校の進学説明会に適宜参加したり、入学者用パンフレットと募集要項を作成し、情報提供を行っている。また模擬授業も高校に出向き行っている。東京都専修学校各種学校協会の自主規制を遵守し、募集を行っている。志願者には専用窓口（入学相談室）を設け、適切に対応している。華の強みを在校生、卒業生へのアンケートで把握して、パンフレット、ホームページで『華が選ばれる3つの魅力』としてアピールしている。入学選考基準、方法は規程で明確に定めており、募集要項に明記している。合否判定は入学選考委員会において、適切、公平に実施されている。学科毎の募集状況、合格率、辞退状況、出願者の成績等を考慮し授業方法の改善を図っている。具体的には基礎学力の劣っている学生が多くみられるため、入学後基礎学力試験を行いそれを把握して、一般常識の授業で対応している。学納金の算定にあたっては消費税の変化、社会状況に鑑み、算定を行い、最終的に理事会の承認を経て決定している。在学中の学納金については全て募集要項に明記し、追加徴収がないよう心がけている。また教材費は別途徴収している（募集要項に明記）。入学辞退者への返還金については、文部科学省の趣旨に基づいて募集要項に明示し、適切に取り扱っている。

## 基準8 財務

### 自己評価結果

応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握し、収支の均衡を保つため、継続的に経営改善に取り組んでいる。顧問の公認会計士の指導を受けて各種資料を作成し、その内容や数値に関する情報およびその推移について把握することを十分に心がけている。単年度予算および中期計画を策定している。予算計画については、事業計画に基づく策定スケジュールに課題があり、検討が必要である。予算編成および予算執行全般について、さまざまな改善を実施したことで無駄な支出を防ぎ、経費節減を図っている。公認会計士による、日常および決算書類作成の会計指導が行われ、監事による会計監査を行っている。決算後には公認会計士から報告書が提出され指摘事項等について改善を図っている。私立学校法における財務情報公開の基準に沿って希望者への閲覧体制を整えている。

## 基準9 法令等の遵守

### 自己評価結果

学校教育法のもと、専門学校教育に関する各種法令、専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。法令に基づく個人情報の取り扱いは適切に行っているが、規程整備にまで及んでいない。学生、卒業生データを電子化し保存しているので古いPCのリプレース、ウイルスソフトの完備等を行い一定の保護策を講じている。日常業務での個人情報取り扱いについては、個人責任を負うところが多い。今後は学生システムの確立により実施する。自己評価について規程を定め実施している。学校点検委員会を設置して、その内容を精査して、学校関係者評価委員会に諮り、評価結果については、改善に取り組んでいる。自己評価の結果は文部科学省のガイドラインに則り、ホームページで公開している。学校関係者評価委員の選任に関しては、学校評価ガイドラインに基づき、必要な委員を選任している。評価結果については、経営層に報告し、改善に努めている。評価結果を取りまとめ、ホームページにて周知している。職業実践専門課程の規程に基づきホームページにて積極的な情報公開に努めている。

## 基準10 社会貢献・地域貢献

### 自己評価結果

学校の教育資源を活かした社会貢献は、教育活動に支障のない範囲で行っている。また高等学校が行うキャリア教育への支援は、見学会の受け入れ、出張講義等を積極的に行っている。国際交流については、現状、留学生の受け入れにとどまっている。教育のグローバル化が進む中で、専門学校としてどのように関わっていくかが課題である。例年、2月の鶯華祭（卒業作品展）においてチャリティーイベントを実施し募金活動を行っている。（今年度はコロナの影響で内部のみでの開催の為実施できず。）また、学校周辺及び最寄り駅付近の清掃を年間通して実施している。

## 学校関係者評価委員からの主なご意見・対応等

### <学生募集について>

- 【意見】 オープンキャンパスの実参加目標人数を 100 名に設定すべき。
- 【対応】 100 名にするために HANA の日（学園祭）のようなイベントや卒業生講話等を企画し高校生へ案内。内容に関しては在校生へのヒアリングを行う。
- 【意見】 1 回参加とリピート参加を比較してリピート参加の出願率が高い。このことはもっと分析すべき現象で、良かった取り組み等をオープンキャンパスでアピールすべき。
- 【対応】 新規参加者へのアンケート実施、入学確定者への聴き取り調査を行い、分析している。その結果を反映するようにしているので引き続き行いたい。
- 【意見】 コロナ禍でより SNS の役割効果が大きくなった YouTube 等で在校生のファッションのこだわり今日着ている服のこだわりなどを自然体でのトークや学生同士のオシャレについてのフリートークを街角インタビュー風にアップ。
- 【対応】 SNS にてファッションスナップや学生の 1 日の流れを掲載開始した。少人数ならではの楽しさやアットホームな雰囲気や他校との差別化を図る。今後卒業生インタビューや、学生インタビュー、コメント掲載予定。授業見学風の動画は足を運べない高校生に対してオンラインで活用予定。
- 【意見】 インスタ、YouTube 等でオープンキャンパス当日の様子をアップする。
- 【対応】 SNS（インスタ、ツイッター、ユーチューブ）、リクルートのスタディアアプリで極力当日、翌日アップしている。
- 【意見】 YouTube 等のアピール大切だが、対面の環境下が全て。
- 【対応】 SNS だけに偏らないよう上記意見を踏まえ、対面環境も強化していく。具体的には、オープンキャンパス参加者一人ひとりに対してのフォローを手厚くする。また、在校生手伝いや季節ごとのイベントも強化していく。
- 【意見】 ・高い技能、知識を身に付けることができる  
・協働学習を通してコミュニケーション力を高めることにより社会人と資質が高まる  
・学費が抑えられる  
上記をしっかりとアピールする。
- 【対応】パンフレットや来校時の教務説明を通して PR。入学してからの技術力向上がわかるような作品紹介やグループ製作、ファッションショー企画などでコミュニケーション力が高められることをアピールしていく。

### <教育活動 学生の質の向上 について>

- 【意見】 ・自分の意見をきちんと相手に伝えられる力  
・自分の意見をデザイン画や型紙を通じて相手に伝えられる技術  
・新しいモノ、コトに興味を持ち前向きにチャレンジできる能力  
・相手の意見を理解し、分からないことを確認できる能力  
以上 4 項目をクリアできる学生育成
- 【対応】上記のことを念頭に学生育成をしていく。繰り返しの訓練や他の人の作品を見て良い部分を取り入れる。また、グループワークを通して他の意見を理解し、自分の意見も伝えられるよう、学生育成していく。
- 【意見】 専門学校なので技術を身につけることは不可欠。ただ“職人”を育てているのではなく“技能、技術を持った社会人”を育てることが大事。コミュニケーション力や協働性が大切。
- 【対応】グループ製作や作品発表会にて協調性やコミュニケーション力を向上させている。（テクニカル科）  
授業内での発表の場を増やし、研究課題などはグループワークで行うよう心がけている。  
（クリエイター科）
- 【意見】テクニカル科では技術優先だが、自己アピールの意味で製作までのストーリー、素材、デザインのこだわりをプレゼンする機会を増やす。製作前のデザイン発表など他コース、他学年の前でも発表させる。
- 【対応】テーマやコンセプトをしっかりと決めて取り組む。
- 【意見】発表会の形式は落ち着いてきたが、学生のプレゼン力、ビジネスマナー等が不足だと感じる。
- 【対応】事前指導の時間を確保し練習を行うようにする。
- 【意見】計画的にステップアップしていくような作品量、課題の量を多少詰め込みすぎてもこなすことで成長する。

- 【対応】 授業の他、夏季と冬季休みにも徐々に作品数を増加させ、数をこなしていく形に変動している。また、数だけでなく技術もステップアップさせていく。今後も継続して見直しを図る。
- 【意見】 学外のイベントへの積極的参加
- 【対応】 コロナ禍の為、様子をみて参加出来るものは積極的に参加していきたい。
- 【意見】 授業間の連携は改善してきたが、シラバスの進行状況、学生の理解到達度などを常にチェックし講師と確認すべき。
- 【対応】 テクニカル科は講師と担任、助手と毎回確認を行っている。クォーター科は講師による授業が多く、現在全ての連携授業は難しいが、連携出来るものはしている。また、同じ内容でも異なる授業で異なる視点から繰り返して授業行っていただき理解を深められるようにしている。

#### <教育活動 教職員の資質向上 について>

- 【意見】 どんなコトでも学生の為になることであれば実行してください。良い結果を伸ばしていけば学生たちに好影響を与えることができます。
- 【対応】 上記のことを念頭に学生育成をしていく。
- 【意見】 しっかりした技能を身に付けたうえで、ティーチングではなく、ラーニングが大切。“ブーカ”の考え方も大切です。
- 【対応】 ラーニングの中で対応力も身に付けて行けるような授業に取り組む。
- 【意見】 校内だけでなく外の社会、異業種と関わりを持ち、グローバルに判断する力を付ける。
- 【対応】 積極的に研修等に参加していきたい。調理製菓校や栄養校の発表会等へも参加し勉強する。
- 【意見】 公開授業を行い、全授業で行われている内容を確認し全体を通して精査する人間が必要。
- 【対応】 今後検討していく。

#### <学修成果について>

- 【意見】 より強い志望動機、自己アピールがないと競争に勝てない。入学時から社会状況を踏まえ、自己表現テクニックを意識した教育を行っていく。
- 【対応】 今年度より「企業研究」の授業を取り入れた、早いうちから企業の調べ方を学び、実際の就活の際にスムーズに調べられるようにする。

#### <その他>

- 【意見】 今の世の中、SDG s の教育は絶対に外せない。
- 【対応】 授業内(具体的には商品企画、素材、総合実習など)で SDGs、サステイナブルについての理解を深めるようにしている。総合実習では、JFW 素材展に参加しサステイナブルを意識した素材などに注目が集まっているのを実体験で学ぶことが出来た。